

「生命を守る人の環境づくり」を、
これからも。



株主通信

第19期

2010年4月1日 ▶
2011年3月31日



SHIP HEALTHCARE HOLDINGS

シップヘルスケアホールディングス株式会社

証券コード:3360

ごあいさつ

このたびの東日本大震災により被災された皆さまに心よりお見舞申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災地の皆さまの安全と一日も早い復旧・復興をお祈りいたしております。

当社グループは、S.H.I.P.理念及び「生命を守る人の環境づくり」のアイデンティティの下、医療機関等に対する適切なソリューションを一括で提供できる、国内唯一の企業集団であると自負し、最適な医療環境再整備の支援を引続き実践してまいりたいと考えております。

また、引続き成長路線を維持し、中期目標である2013年3月期：売上高2,000億円の達成を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

グループ理念

S. H. I. P.

Sincere + Humanity + Innovation + PartnerSHIP
(誠実な心) (「情」の心) (革新者の気概) (パートナーシップ精神)

「生命を守る人の環境づくり」を、これからも。
SHIPヘルスケアグループはいつもYour Company です。

2011年度スローガン

Communications Gap 0 (ゼロ)!!

トップインタビュー

『進化』と『成長』はとまらない

ワンランクアップした事業基盤をもとに 次なる成長を目指す

01 現在の経営環境についてのご認識をお聞かせください

当社グループの属する医療業界におきましては、10年ぶりとなる診療報酬の増額改定、各種補助金などにより医療機関の設備投資意欲が改善しつつあるものの、経営環境は依然として厳しい状況にあります。加えて、来年予定されている医療・介護保険のダブル改定による診療報酬・薬価の引き下げを見越した価格下げ圧力により、メーカーや販社における競争は、引続き激しさを増してきております。

一方で、地域中核病院を中心とする急性期の病院は、統廃合が進み、より大きく複雑な施設へと急激に変動しております。

こうした業界・市場構造の変革により、単なる商品の売買だけでなく、病院計画の策定からオープン、その後の運営まで多岐に亘り、高いレベルのサービスが求められております。

我々は、このような環境をビジネスチャンスと捉え、我々しか提供することのできない、エンジニアリング力、幅広いソリューションと高い顧客満足を提供してまいります。

02 そのような中で、当期の業績はいかがでしたか

医療機関の投資意欲の改善を受け、メーカー系各社の業績が当初計画を上回り、順調に推移しました。また、老人ホームの高い稼働率やプロジェクト案件、調剤薬局の運営も計画通り進捗いたしました。この結果、前期に引続き、過去最高の収益を達成することができました。

業績結果

(単位：百万円)

	2011年3月期	前期比
売上高	162,432	16.0%増
営業利益	7,856	37.8%増
経常利益	8,850	44.1%増
当期純利益	5,931	88.0%増

Q3

それでは今後の経営方針 についてお話をください

当期は、2009年3月期より取組んでまいりました中期3ヶ年経営計画の最終年度でございますが、おかげさまで1年前倒しで達成することができました。また、有利子負債の圧縮など、財務バランスも引続き改善が進みました。今後につきましては、2013年3月期の売上高2,000億円達成を目指して、より一層の成長を目指し、ワンランクアップした事業基盤のもと、さらなるスケールメリットの追及、グループ間シナジー効果の最大限の発揮、新分野への取組みを進めてまいります。

具体的には、激しい競争が続く医療業界において、幅広いエンジニアリング力とスケールメリットを生かして、さらなるシェアの拡大を図ってまいります。また、グループ内の情報共有の強化により、グループシ

ナジーの強化を図ってまいります。新分野への取組みとしては先端の医療技術分野はもとより、海外への進出を加速させてまいります。

このように当社グループは、各事業分野の様々なソリューションを有機的に結び付け、競争優位を勝ち取る総合的なサービス品質を高めてまいります。なお、今後の成長戦略につきましては、グループ企業間の連携を深め、確固たる意思の共有化を図るために、この一年間をかけてグループ各社とともに策定してまいりたいと思います。

Q4

最後に株主の皆さまへのメッセージを お願いします

今回の震災は、現代医療におけるインフラ整備の大切さと、非常事態におけるインフラ維持の難しさの両方を再認識させられる機会となりました。

「生命を守る人の環境づくり」をグループアイデンティティとし、医療に関するインフラ整備を行っている当社グループといたしましては、大きな変動が続ける医療業界において、常に旬を捉えたよりレベルの高い顧客目線のサービスの提供を行うのはもちろんのこと、このような最悪の事態を想定したインフラ整備を併せて実践してまいりたいと考えております。

医療費の増大、医師・看護師不足、訴訟リスクや安全管理などによるコスト増加など、医療を取り巻く課題は山積しておりますが、業界のリーディングカンパニーとして、これらの課題をソリューションし、これからも「生命を守る人の環境づくり」を実践してまいります。

基本方針

ワンランクアップした
事業基盤のもと、
右記の施策に注力

- 面の確保、シェアの拡大を通じたスケールメリットの追求
- インフラ・情報共有をベースにしたグループ間シナジーの最大限の発揮
- 成長が期待される新分野への取組み



代表取締役社長

古川 國久

多くの分野で計画・目標を超える成果を達成

主な成果

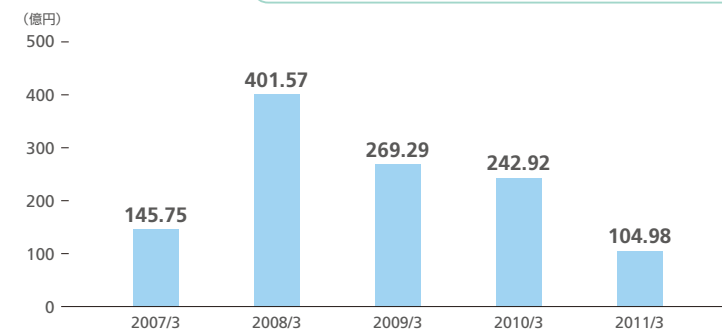
各セグメント毎の成長のための施策の実施	TPS事業 (トータルバックシステム)	● (株) セントラルユニ、山田医療照明(株)、酒井医療(株)のメーカー系3社を揃え、医療設備・機器関連需要への対応を強化 ● 商社系の強化施策として全国でのプロジェクト体制を整備 ● 情報系においては、グループ全体のシステムサポートの充実と専門分野への特化を推進 ● 医療機関への提案力を高めるために、最新の技術と機器を用いたSSC (スキルシミュレーションセンター) を開設
	MSP事業 (メディカルサプライ)	● 情報システムの強化とグループ内で共通基盤づくりのために、商品管理システムを構築 ● 物流機能の拡充に向けて第2ロジセンターの準備を推進 ● グループ内のシナジー効果の発揮に向けて共同購入を開始
	ヘルスケア事業	● 介護付有料老人ホームの稼働率が上限を安定的に推移 ● 食事提供サービス事業が軌道に乗る
	調剤薬局事業	● 収益性を重視した経営戦略により、増益傾向を確保 ● 確実な出店政策のもとグループ合計48店舗体制に
グループ企業の統合再編と連結経営の強化		● (株) セントラルユニを完全子会社化し、グループ経営を強化 ● 迅速な経営判断、グループ間の連携を深めるために、持株会社体制に移行 ● 当中期経営計画期間において最大44社あったグループ会社を35社に統合(2011年4月1日現在)
キャッシュ・フローの重視による財政基盤の強化		● 財務体質の強化に注力し、2011年3月末で純借入金*を約100億円まで圧縮



スキルシミュレーションセンター内観

○ 純借入金*の推移

* 純借入金 = 有利子負債合計 - 現金及び預金残高

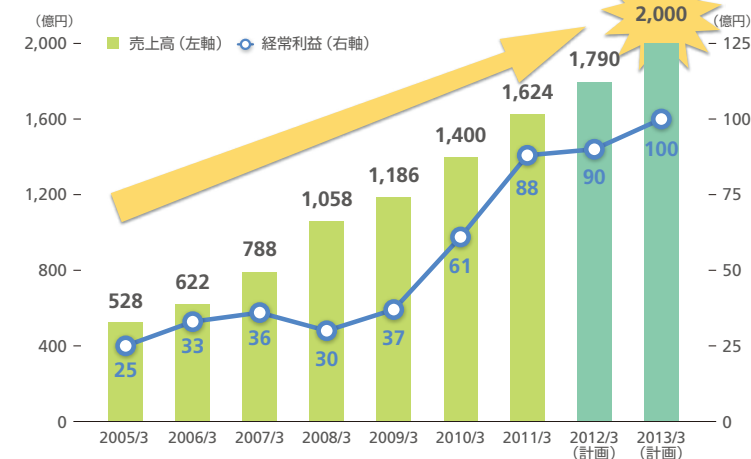


○ 今後の目標

2013年3月期
目標数値

売上高 2,000億円

経常利益 100億円



(株)札幌メディカルコーポレーションを この度、グループに迎え入れました。

営業基盤の強化を目指し、2010年12月6日に、北海道を地盤に循環器等の専門医療材料を販売している(株)札幌メディカルコーポレーションの全株式を取得し、連結子会社といたしました。

この度、グループに迎え入れた(株)札幌メディカルコーポレーションは、北海道における医療機関への医療器具・機器の販売を手掛け、SPD業務も展開しております。特に、心臓血管外科・循環器科・心臓内科などの心臓関係分野には強く、各医療機関とのパートナーシップのもと、最新・最適な医療器具・機器を提供しております。

また、同社の日本メディカルツーリズム協会副理事でもある若手社員が起業したメディカルツーリズム北海道(株)も当社グループに迎え入れました。メディカルツーリズム北海道(株)は、社名に表わされているように、中国をはじめとするアジア各国の超富裕層に向けて、日本の高度な医療システムをサービス資源として事業を営む会社です。この事業は、今後成長が期待されております。

今回のグループ化により、北海道における営業基盤を拡充すると同時に、医療観光サービスという新しい事業を開拓し、医療機関との関係を強化してまいります。

○ (株)札幌メディカルコーポレーションの概要

本社所在地	札幌市白石区本通3丁目北6番18号
拠点	関東、函館、旭川、北見
事業内容	循環器等専門医療材料販売会社
設立	1986年6月

○ メディカルツーリズム北海道(株)の概要

本社所在地	札幌市白石区本通3丁目北6番18号
事業内容	外国人医療観光コーディネート
設立	2010年10月

千里レジデンスメディカルモール OPEN

暮らしに安心をもたらす専門科目が集合した医療施設“メディカルモール”の開設を計画し、この度、大阪府下千里中央の中心に千里レジデンスメディカルモールを2011年4月1日にオープンいたしました。

千里レジデンスメディカルモールのある千里中央は、周囲に千里ニュータウンなどの多くの居住区や大規模商業施設があります。この度オープンしたメディカルモールは、千里中央を生活圏とする方々への医療サービスの充実を目指し、内科、整形外科、眼科・皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科などの専門科目の医療施設と調剤薬局を組み合わせ開業いたしました。



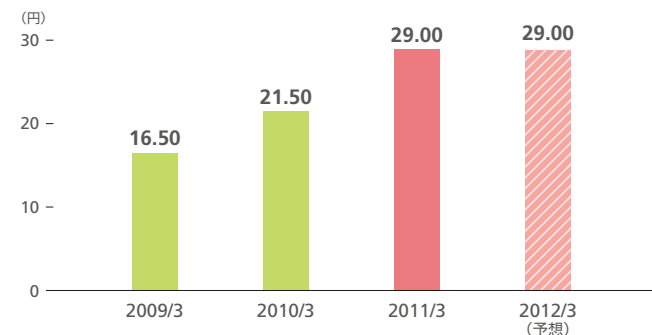
あすと長町再開発事業について

千里中央プロジェクトに引続き、第2弾として仙台市「あすと長町再開発事業」を計画いたしております。医療施設、介護施設、クリニックモールなど医療複合施設を展開することを企図し、すでに事業用地を購入いたしました。なお、この場所を当社グループの東北拠点としても位置付けており、復興を目指して頑張っておられる東北地方はじめ東日本の皆さまと共に発展してまいりたいと考えております。

当期、配当金を当初予想から 5円増配いたしました。

当期の業績につきまして、期初より順調に推移した結果、2年連続で過去最高収益を達成いたしました。このような業績の中で、今後の事業投資のための内部留保、有利子負債の圧縮、株主の皆さまへの還元などを総合的に勘案した結果、当初予想から5円増配し、1株当たり29円の配当金とさせていただきます。

○ 1株当たり配当金の推移



※ 2010年10月1日を効力発生日として、株式分割を1:100の比率で実施しており、2010/3以前の配当金額については、株式分割を遡及して表示しております。

東日本大震災により、被災された皆さまを ご支援するために、 義援金2千万円を寄附いたしました。

この度の震災による当社グループへの影響は軽微であります、「生命を守る人の環境づくり」に貢献していく当社グループといたしましては、震災で被災された皆さまの支援に多少なりとも役立てていただくために、義援金2千万円を日本赤十字社を通じて被災地に寄附いたしました。また、義援金の他に、被災地の医療機関に対する物資の補給や薬剤師の派遣など物的、人的な支援も行っております。

○ 連結貸借対照表

	当 期 2011年3月31日現在	前 期 2010年3月31日現在	前期比 増減額
【資産の部】			
流動資産	79,294	77,312	1,982
現金及び預金	22,767	11,588	11,179
受取手形及び売掛金	41,688	52,941	△ 11,252
商品及び製品	5,858	5,736	121
仕掛品	1,284	1,791	△ 506
原材料及び貯蔵品	901	803	98
繰延税金資産	1,313	932	381
短期貸付金	659	950	△ 291
その他	4,957	2,921	2,036
貸倒引当金	△ 138	△ 353	215
固定資産	37,527	37,306	220
有形固定資産	23,097	23,618	△ 521
建物及び構築物	6,818	7,167	△ 348
機械装置及び運搬具	169	190	△ 20
土地	5,892	5,841	51
貸与資産	57	48	8
賃貸不動産	9,066	9,288	△ 222
その他	1,092	1,081	10
無形固定資産	1,558	957	600
のれん	1,087	490	596
その他	470	466	4
投資その他の資産	12,872	12,731	140
投資有価証券	3,221	2,575	645
長期貸付金	7,142	8,445	△ 1,302
繰延税金資産	784	529	254
破産更生債権等	250	274	△ 24
差入保証金	2,499	2,413	86
その他	1,011	610	401
貸倒引当金	△ 2,037	△ 2,117	79
資産合計	116,822	114,619	2,202

(単位：百万円)

	当 期 2011年3月31日現在	前 期 2010年3月31日現在	前期比 増減額
【負債の部】			
流動負債	60,721	64,157	△ 3,436
支払手形及び買掛金	42,604	42,729	△ 124
短期借入金	2,600	6,245	△ 3,645
1年内返済予定の長期借入金	6,386	5,709	677
未払法人税等	1,585	1,913	△ 327
繰延税金負債	17	15	2
賞与引当金	1,012	943	68
その他	6,515	6,602	△ 86
固定負債	26,065	25,951	113
社債	3,942	4,488	△ 546
長期借入金	18,461	18,390	71
退職給付引当金	1,703	1,449	253
役員退職慰労引当金	—	100	△ 100
繰延税金負債	916	559	357
資産除去債務	65	—	65
その他	976	963	12
負債合計	86,787	90,109	△ 3,322
【純資産の部】			
株主資本	28,522	23,466	5,055
資本金	5,667	5,667	—
資本剰余金	10,036	10,036	—
利益剰余金	12,819	7,764	5,055
自己株式	△ 1	△ 1	—
その他の包括利益累計額	1,147	770	376
その他有価証券評価差額金	1,160	778	381
為替換算調整勘定	△ 12	△ 7	△ 4
少数株主持分	365	272	93
純資産合計	30,035	24,509	5,525
負債純資産合計	116,822	114,619	2,202

○ 連結損益計算書

(単位：百万円)

	当 期 2010年4月 1日～ 2011年3月31日	前 期 2009年4月 1日～ 2010年3月31日	前期比 増減額
売上高	162,432	140,009	22,423
売上原価	139,262	120,869	18,392
売上総利益	23,170	19,139	4,030
販売費及び一般管理費	15,314	13,439	1,875
営業利益	7,856	5,700	2,155
営業外収益	1,644	1,325	318
営業外費用	650	883	△ 233
経常利益	8,850	6,142	2,707
特別利益	389	658	△ 269
特別損失	1,100	1,069	30
税金等調整前当期純利益	8,139	5,732	2,407
法人税、住民税及び事業税	2,474	2,503	△ 28
法人税等調整額	△ 400	△ 195	△ 205
少数株主損益調整前当期純利益	6,065	—	6,065
少数株主利益	134	269	△ 135
当期純利益	5,931	3,154	2,776

○ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当 期 2010年4月 1日～ 2011年3月31日	前 期 2009年4月 1日～ 2010年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,818	2,776
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 551	3,184
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,105	△ 4,242
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 5	9
現金及び現金同等物の増減額	11,155	1,727
現金及び現金同等物の期首残高	10,485	8,793
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	108	△ 35
現金及び現金同等物の期末残高	21,750	10,485

業績の概要

Outline of Business Results

株式関連情報

Stock Information

(2011年3月31日現在)

○ 主な経営指標の推移[日本基準](連結)

(単位：百万円)

	2007/3	2008/3	2009/3	2010/3	2011/3	2012/3(予想)
売上高	78,845	105,871	118,604	140,009	162,432	179,000
営業利益	3,297	2,979	3,625	5,700	7,856	8,200
経常利益	3,643	3,045	3,761	6,142	8,850	9,000
当期純利益(△純損失)	2,468	△ 3,767	2,053	3,154	5,931	5,950
総資産	90,213	107,317	101,573	114,619	116,822	—
純資産	25,726	21,202	23,534	24,509	30,035	—

トータルパックシステム事業

トータルパックシステム事業におきましては、メーカー系における手術室ユニットや、ICU・CCUユニット、特殊浴槽やリハビリ機器の販売やメンテナンス件数が順調に推移いたしました。また、プロジェクト案件における追加ニーズや既存得意先の機器更新需要を積極的に獲得し、グループ会社内のシナジー効果が発揮できる体制も着実に構築されてまいりました。

以上の結果、売上高は58,291百万円(前期比16.4%増)、営業利益は4,850百万円(同27.3%増)となりました。

メディカルサプライ事業

メディカルサプライ事業におきましては、一般診療材料における医療機関への販売数量が増加するとともに、(株)札幌メディカルコーポレーションのグループ化等により、専門領域における販売数量も増加いたしました。さらに院内SPD、院外SPDの販売数量増加と物流効率化が進んだことにより順調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は82,676百万円(前期比19.3%増)、営業利益は1,455百万円(同19.2%増)となりました。

ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、期初より入居者数が損益分岐点を超え、全7施設(定員1,308名)における期末入居者数は1,197名まで増加するなど、ほぼ計画通り推移いたしました。また、食事提供サービス事業も大型の医療施設をはじめとする新たな契約先を獲得して順調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は7,687百万円(前期比11.6%増)、営業利益は953百万円(同61.6%増)となりました。

調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、薬価改定により販売単価が下落するとともに、医薬品卸会社との価格交渉も厳しいものとなった一方で、ジェネリック薬品や調剤技術料の加算の獲得に努めました。また、子会社の(株)仙台調剤におきましては、東日本大震災による津波の影響により浸水被害が出るとともに、決算作業が困難となったため、2月末において実施した仮決算による11ヶ月決算としております。一方、薬局運営については、災害による損失の影響は軽微でありました。

以上の結果、売上高は12,638百万円(前期比0.2%減)、営業利益は1,366百万円(同19.2%増)となりました。

その他

その他におきましては、動物病院の顧客数が安定し、提携動物病院からの画像診断依頼が増えるとともに、リハビリ機器メーカーとの共同開発による動物用リハビリなど新しい試みにも挑戦いたしました。また、理化学機器の販売事業につきましても順調に推移したことから、当初計画通りに推移いたしました。

以上の結果、売上高は1,137百万円(前期比2.5%増)、営業利益は121百万円(同14.8%増)となりました。

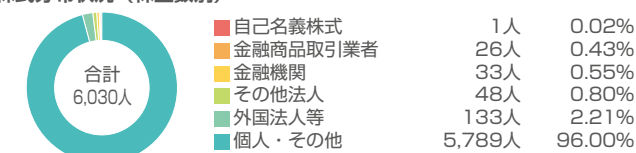
○ 株式の状況

発行可能株式総数	64,000千株
発行済株式総数	41,259千株
株主数	6,030名

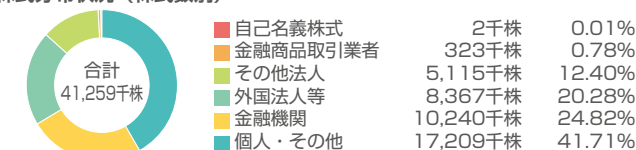
※ 2010年9月30日を基準日、2010年10月1日を効力発生日として、株式分割を1:100の比率で実施しております。同時に100株を1単元とする株式の単元化も実施しております。

○ 株式分布状況

株主分布状況(株主数別)



株式分布状況(株式数別)



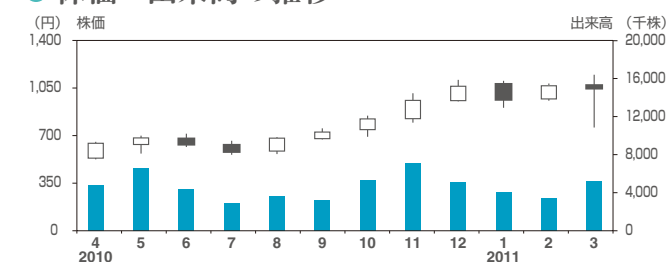
※ 株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

○ 大株主の状況

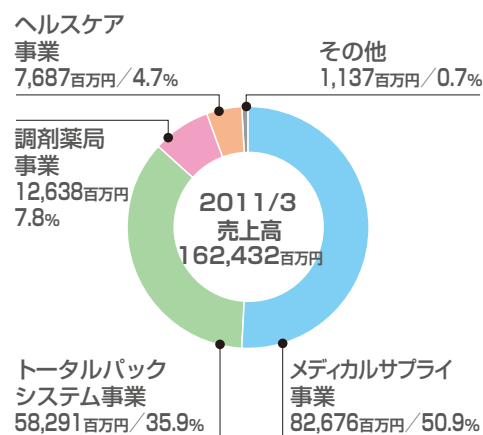
	[保有株式数]	[保有割合]
有限会社コッコー	3,381千株	8.19%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,712千株	6.57%
古川國久	2,028千株	4.91%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,922千株	4.66%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,700千株	4.12%
古川幸一郎	1,585千株	3.84%
春日興産合同会社	1,400千株	3.39%
ビービーエチ マシユーズ アジア ディビデンド ファンド	1,285千株	3.11%
増田貞満	1,232千株	2.98%
従業員持株会	1,022千株	2.47%

※ 株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

○ 株価・出来高の推移



セグメント別売上高構成比



会社情報

○ 会社概要 (2011年3月31日現在)

商 号 シップヘルスケアホールディングス株式会社
設 立 1992年8月
代表取締役社長 古川 國久
資 本 金 56億6,708万円
決 算 月 3月
従 業 員 数 連結2,275名
本 社 所 在 地 〒565-0853
大阪府吹田市春日3丁目20番8号
TEL : 06-6369-0130
FAX : 06-6369-3191

○ 役員 (2011年6月28日現在)

代 表 取 締 役 社 長	古 川 國 久
専 務 取 締 役	播 戸 健
専 務 取 締 役	増 田 順
取 締 役	小 川 宏
取 締 役	大 橋 隆 太
取 締 役	沖 本 浩 一
取 締 役	小 林 宏 行
取 締 役	横 山 裕 司
取 締 役	細 川 賢 治
社外取締役 (独立役員)	和 田 義 昭
常 勤 監 査 役	前 田 亮 常
非 常 勤 監 査 役	竹 原 靖 昌
社 外 監 査 役	水 野 昌 也
社 外 監 査 役	大 山 博 康

○ 当社ホームページのご紹介



HOME (左) …… <http://www.shiphd.co.jp>
IRトップ (右) … <http://www.shiphd.co.jp/ir/index.html>

今後も株主の皆さまをはじめ、より多くの方に当社ならびにシップヘルスケアグループに関するご理解とご関心をお持ちいただけるよう、様々な情報を分かりやすく、そして迅速に掲載してまいります。

株主メモ

事 業 年 度 4月1日～3月31日
期 末 配 当 金 受 領 3月31日
株 主 確 定 日
定 時 株 主 総 会 毎年6月中
株 主 名 簿 管 理 人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL 0120-094-777 (通話料無料)
特 別 口 座 の 住友信託銀行株式会社 (旧 グリーンホスピタルサプライ (株) の株主様)
口 座 管 理 機 関 みずほ信託銀行株式会社 (旧 (株) セントラルユニの株主様)
同 連 絡 先 住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所
公 告 の 方 法 電子公告により行う
公告掲載URL <http://www.shiphd.co.jp>
(ただし、電子公告によることが出来ない事故、
その他のやむを得ない事由が生じたときは、
日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、住友信託銀行並びにみずほ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記連絡先にお問い合わせください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

お問い合わせ・資料請求等は、下記まで…

シップヘルスケアホールディングス株式会社

〒565-0853 大阪府吹田市春日3丁目20番8号
TEL : 06-6369-0130 (IR窓口) FAX : 06-6369-3191

URL (ホームページアドレス)

<http://www.shiphd.co.jp>



SHIP HEALTHCARE HOLDINGS

アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまからいただいたご意見を誠実に受け止め、今後の経営及びIR活動に活かしてまいりたいと考えております。皆さまからの貴重なご意見をお待ちしております。なお本アンケートを当社ディスクロージャーの充実以外の目的には利用しないことをお約束いたします。

Q1 当社株式をいつ頃ご購入されましたか?

- ① 1ヶ月以内 ② 2～5ヶ月前
③ 6ヶ月以上前 ④ 1年以上前
⑤ 株式上場時(2005年2月)

Q2 当社株式の今後の保有方針をお教えてください。

- ① 中長期的に保有する ② 短期で考えている
③ 買い増しする ④ 投資収益に応じて売却する
⑤ 未定

Q3 当社経営に関して、何を重視すべきと思われますか? (上位3点をお選びください)

- ① 規模の拡大 ② ビジネスモデルの強化
③ 経営の効率化 ④ 収益性 ⑤ 安定性
⑥ 株主政策の強化 ⑦ その他()

Q4 当社のIR活動に関して、何を重視すべきと思われますか?

- ① 株主通信 ② ホームページ ③ 株主総会
④ 個人投資家向け説明会の開催
⑤ その他()

Q5 今回の株主通信でご興味を持たれた内容は何ですか?

- ① トップインタビュー ② 特集 ③ トピックス
④ 連結財務諸表 ⑤ 業績の概要
⑥ 株式関連情報及び会社情報

Q6 今回の株主通信をどのようにご評価されますか?

- ① 大変満足している ② ある程度満足している
③ 普通 ④ あまり満足していない ⑤ 不満である

Q7 その他、ご意見・ご要望等をご自由にご記入ください。